

## 所属研究団体日本遺伝学会 令和3度 事業報告

### 事業計画の概要

本会は遺伝に関する研究を奨め、その知識の普及をはかるため、下記諸事業を計画する。

1. 学会誌Genes & Genetic Systemsの発行(隔月1回)
  - (1) Vol 96 No.1~No.5発行した。
  - (2) 別刷論文について、Vol 96では注文はなかった。
  - (3) GGS PRIZEについて、編集委員会で古賀委員より5編を最終候補とした経緯及び論文の内容の説明が有り、審議の結果、3編をGGS prize 2021として決定した。
    - Title  
Signature of positive selection in mitochondrial DNA in Cetartiodactyla  
Author  
Satoko Mori, Masatoshi Matsunami\*  
Published in Genes & Genetic Systems 2018,93(2):65-73.
    - Title  
Mb-level CpG and TFBS islands visualized by AI and their roles in the nuclear organization of the human genome  
Authors  
Kennosuke Wada, Yoshiko Wada, Toshimichi Ikemura\*  
Published in Genes & Genetic Systems 2020,95(1):29-41.
    - Title  
ONSEN shows different transposition activities in RdDM pathway mutants  
Authors  
Yui Hayashi, Kanako Takehira, Kosuke Nozawa, Takamasa Suzuki, Yukari Masuta, Atsushi Kato, Hidetaka Ito\*  
Published in Genes & Genetic Systems 2020,95(4):183-190.
2. 年次大会の開催(第93回大会をオンラインにて開催した。大会事務局は学習院大学)
  - (1) 学会員を対象とした一般口頭発表を開催した。  
(一般講演109演題、ポスター発表29演題)
  - (2) 国際/国内シンポジウムを開催した。(各1件、12演題)
  - (3) テーマ毎による会員、非会員によるワークショップを開催した。  
(11件、58演題)
  - (4) 男女共同参画推進の一環として、大会中に男女共同参画フォーラム「みんなで支えよう、女性の社会進出と男性の家庭進出」を開催した。
  - (5) 第93回大会一般口頭発表者からすぐれた成果を発表した11名にBest Paper賞を授与した。
  - (6) 第93回大会ポスター発表者からすぐれた発表をした5名にポスター賞 (Young Best Poster 賞)を授与した。
  - (7) 台湾(Academia Sinica) オーストラリア、ニュージーランドから学生7名が口頭発表をして国際交流をはかった。
  - (8) 市民公開講座『がんの遺伝的多様性の理解からがんの治療法を考える』を開催した。

## 別添資料 I

### 3. 木原賞・奨励賞の授与

7月16日にオンラインにて開催された学会賞選考委員会で審議の結果、次の会員を授賞者とした。

木原賞：石川冬木会員

奨励賞：伊藤秀臣会員、中川拓郎会員

### 4. 遺伝学談話会の開催

今年度は開催なし。

### 5. 春季分科会

第2回日本遺伝学会「春の分科会」を3月28日に学生（学部生・大学生）オンライン口頭発表大会として開催した。

### 6. 委員会の活動等

#### (1) 遺伝学教育用語検討委員会

「遺伝学教育用語検討委員会」を設置し、引き続き遺伝学に関する学術教育用語の整理を進めた。

奇形を含む医学用語改訂に関するワーキンググループに参加した。

#### (2) 男女共同参画推進委員会

引き続き男女共同参画学会協連絡会へ参加した。

Slackを利用した情報交換体制の確立、委員会を開催した。また、育児休業等と科研費執行に関するルールの調査をし、調査結果を学会HPで公表した。

女性研究者を支えるための家庭環境の整備、意識改革について大会初日にフォーラムを開催した。（大会参加者のアンケート調査をフォーラムで報告）

#### (3) 遺伝学普及・教育担当委員会

中学・高校を対象としたオンライン講師派遣事業を開始した。

#### (4) 将来計画委員会

2023年に予定されている国際遺伝学会オーストラリア大会に対し日本遺伝学会は協力することとした。また、国際遺伝学会への日本遺伝学会の復帰については引き続き議論することとした。また、日本遺伝学会会員に対して、大規模アンケートを行った。

#### (5) 生物科学学会連合

当学会の小林武彦会員が2期目（2021-2022）の代表に就任した。日本遺伝学会は生物教育・大学入試問題検討委員会に参加した。

#### (6) 自然史学会連合

本学会は自然史科学の研究・教育の振興を目的として、動物学・植物学・地学など主に基礎的な野外科学に関連する学会と協力して、幅広い活動を進めた。

### 7. 遺伝学百科事典について

100周年記念行事として取り組み、2022年1月に丸善出版より刊行した。

### 8. 学生派遣について

11月3日、4日にオンライン開催のThe 2021 Multiomics and Precision Medicine Joint Conference（2021MOPM）へ3名の学生が参加した。